

栗原議員（公明党）

平成 27 年 2 月 17 日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）子供への防災教育について

この度の災害を通じて、学校教育の中で防災教育をきちんと位置付けていくことが重要だと感じる。子供たちが日常から防災と減災に深い関心を持ち、意識を高め、自分で考え判断し行動できる「防災力」を身につける、「防災意識の定着」こそが、防災教育の到達地点でなければならない。今の防災教育は知識だけの防災教育になっていないかが心配である。

そこで、県は小中学校での防災教育の取組について、どのように考えているのか、また、教員の防災意識を高めるため、教員に対する防災教育をどのように取り組むのか、併せて伺う。

（答）

学校における防災教育は、どのような災害に対しても、主体的に判断し、適切に行動できるよう、児童生徒の危険予測・危険回避能力の育成を図ることが重要であると考えております。

このため、県教育委員会では、小中学校に対して、本県で独自に作成した防災教育の手引を活用し、災害についての基本的な知識の習得だけではなく、地域の実情に応じた、より効果的な防災教育を行うよう、指導しているところでございます。

また、教職員に対しましては、広島地方気象台などの専門家を講師として、教職員自らの防災意識を高める研修を行うとともに、児童生徒が防災に深い関心を持ち、主体的に判断し、適切に行動できる力を身に付けるよう、実践的な授業づくりなどについて研修を行っているところでございます。

こうした研修の成果として、例えば、小学校の理科で、流れる水の働きについて学習する際、この度の土砂災害と関連づけ、地元のハザードマップを活用して、児童に身近な避難場所や避難経路を確認させるといった授業が行われております。

教育委員会といたしましては、このような取組事例を防災教育の手引に追加することや全校一斉の防災訓練を行うなど、各学校における防災教育のより一層の充実を図ってまいります。